

5. 資本主義社会のイメージ

資本主義社会の
メインプレイヤー

今回のキーワード

- ⊕ 市場社会vs.資本主義社会
- ⊕ 企業社会=従業員社会
- ⊕ 高い強度の労働・熟練労働・複雑労働

今回の課題

- ✓ 資本主義社会のメインプレイヤーを明らかにする。
- ✓ 市場社会と資本主義社会との関係を明らかにする。
- ✓ 熟練労働・複雑労働の概念を明らかにする。

1. 資本主義社会の特徴

現代社会の決定的特徴

- 財貨・サービスが商品として生産されている。
 - 価値の生産
 - 市場社会
- しかも、営利企業によって生産されている。
 - 価値の増大=利潤
資本主義社会

市場行動と営利活動

- “損しない”
 - 市場社会一般の行動原理
 - 同じ車がA店では100万円、B店では150万円ならA店で買おう。
- “もうける”
 - 資本主義社会の行動原理
 - 100万円投資したら1年後に150万円になって帰ってきた。

市場社会から資本主義社会へ

- 市場社会
 - オープンな流通部にそくして現代社会をつかまえた
 - 商品と貨幣のシステム
- 資本主義社会
 - “関係者以外立入禁止”の企業の中に入って現代社会をつかまえる
 - 資本のシステム

資本のイメージ

- 資本主義社会と言うからには資本が問題
 - 資本のいろいろなイメージ
 - 企業、会社、生産手段、会計上の資本など
 - 資本の共通のイメージ=カネモウケ

カネモウケ

- カネと言うからには、貨幣が問題
- モウケと言うからには、たんなる貨幣そのものではなく、貨幣が増えるということが問題
 - 100万円投資したら、150万円を回収する
- 貨幣は価値のかたまり
 - 貨幣が増えるということは価値が増えるということ

資本

- 資本
 - ⇒さまざまな姿を取りながら、絶えず増えていく価値の運動体
 - 物件であるが、単なる自然物ではなく、物件として実現された諸人格の生産関係であり、
 - 単なる静的な関係ではなく、絶えず変化していく動的な社会関係である。

システムとしての資本

- 資本主義社会と言うからには、資本が社会を成立させていなければならない
 - ⇒システムとしての資本、資本の社会システム
 - たんに個々の経済主体の手の中で価値が増えるだけでなく、社会全体で見ても価値が増えていなければならない

資本のいろいろなイメージ

- 企業
 - モノの運動と労働の組織として資本を把握
- 会社
 - 人格の組織として資本を把握
- 生産された労働手段
 - 資本存立の条件
- 会計上の資本
 - 一定時点をとって資本を把握
- 株式（その他の有価証券）
 - 現実資本と擬制資本とへの二重化

メインプレイヤー(1)：企業

- 商品生産者の二つの種類
 1. **資本主義的営利企業**
= 多数の従業員を雇用する
 2. **自営業者**
= 従業員を雇用せずに自ら働く
- メインプレイヤーは資本主義的企業
- この面から見ると、資本主義社会は**企業社会**である。

企業の二つの種類

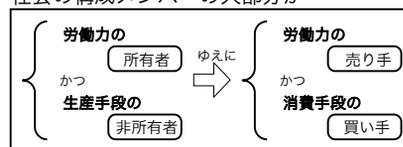
- 企業の二つの種類
= 資本家 (= 出資者) の違い
- 1. **個人企業**
= 自然人としての個人が資本家である
- 2. **会社企業**
= たくさんの資本家が結合している
 - 合名会社
 - 合資会社
 - 株式会社

メインプレイヤー(2)：賃金労働者

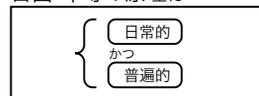
- その存在条件
 1. 生産手段をもっていない (非所有者)
≠ 企業・自営業者
 2. 労働力をもっている (所有者)
≠ 奴隷
- 労働力を時間ごめで販売する
- 自由・平等な私的所有者
- この面から見ると、資本主義社会は**従業員社会**である。

従業員社会の歴史的意義

社会の構成メンバーの大部分が…



自由 平等の原理は…

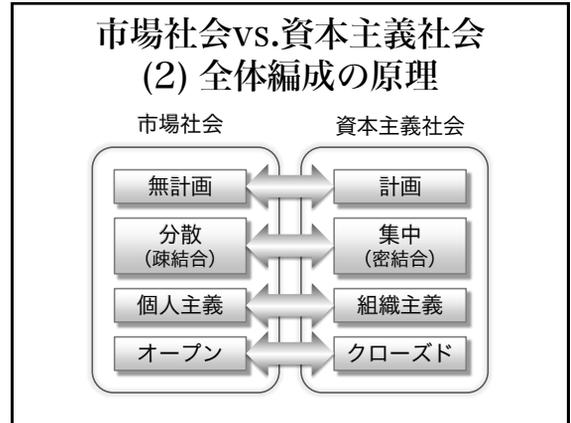
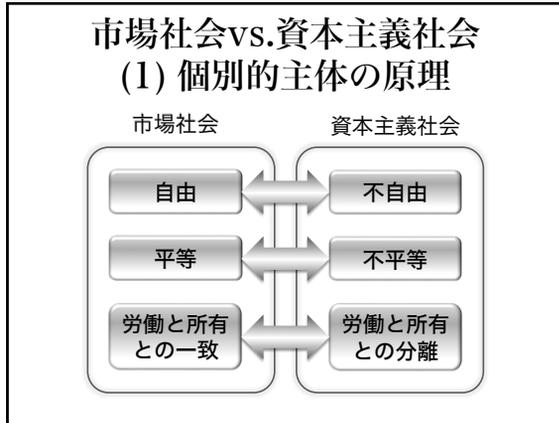


企業と従業員：商品・貨幣の流れ

企業	従業員
従業員から労働力を購買 (企業から生産手段を購買)	企業に労働力を販売
従業員に賃金を支払	企業から賃金を受取
従業員に消費手段を販売 (企業に生産手段を販売)	賃金の一部を消費して、 企業から消費手段を購買
従業員から資金を調達 (企業から資金を調達)	賃金の一部を貯蓄して、 企業に資金を提供

流通から生産へ

- 市場
 - オープンな社会的場面
 - 誰でも飛び入りOK
- 企業内
 - クローズドな私的領域
 - 関係者以外立入禁止



2. 熟練・複雑・高い強度の労働

同じ時間により高い価値を生む労働

熟練・複雑・高い強度の労働

- 同じ時間内に高い価値を生む
 1. 高い強度の労働
 - 一所懸命, 集中してやりました
 2. 熟練労働
 - 何度もやって慣れました
 3. 複雑労働
 - やる前にあらかじめ勉強しました

1. 高い強度の労働

高い強度の労働

= 集中力を高め, 無駄な時間 (隙間時間) をなくした労働

⇔ 通常の強度の労働

労働力とインセンティブ

- 労働力の違いではない
 - 同じ人間であっても、
集中してやればOutputが違ってくる
- 生産力の上昇ではない
 - Outputが増えたのはInputが増えたから
- 出来高賃金によって支払われる。

高い強度の労働と長時間労働

- 長時間労働は時間賃金（時給）
高い強度の労働は出来高賃金（業績給）
- 長時間労働は労働の外延的増大
高い強度の労働は労働の内包的増大
- 通常は、
長時間労働は労働の強度を落とし、
高い強度の労働は長時間労働を
困難にする。

高い強度の労働と長時間労働

	高い強度の労働	長時間労働
共通性	労働の内包的増大 (時間あたり労働量の増大)	労働の外延的増大 (時間の延長)
インセンティブ	出来高賃金 (業績給)	時間賃金 (時給)
対立	労働時間の延長を 困難にする。	労働の強化を困難 にする。

2. 熟練労働

熟練労働

- =やり方が巧みであるような労働
⇔不熟練労働
- 同じ種類の具体的労働において、
熟練労働と不熟練労働との違いが
出てくる。

例

熟練労働の例 (1) 別の人の例

- 新人のタクシー運転手よりも、
ベテランのタクシー運転手の方が
道をよく知っている。

例

熟練労働の例 (2) 同じ人の例

- 毎日、一日中、キャベツを切っていると、キャベツ切りがやたらと上手くなる。

※これは複雑労働とは別。

むしろ通常は、複雑労働よりも、単純労働の方が、より素速く熟練することができる。
例えば、注文も取って、キャベツも切って、もんじゃの種も作り、焼きもするような、より複雑な労働よりも、キャベツ切りしかしないような、より単純な労働の方が、キャベツ切りに関しては、より素速く熟練することができる。

労働力とインセンティブ

▶ 熟練労働力の発揮

- 同じ作業の反復による労働力の変化
- 出来高賃金によって支払われる。

3. 複雑労働

複雑労働

= 内容が複雑であるような労働

⇔ 単純労働

- 異なる種類の具体的労働において、複雑労働と単純労働との違いが出てくる。

例

複雑労働の例 (1) 同部門の例

1. 機械式時計生産部門で言うと、歯車磨き専門の職人よりも、歯車磨きを含む何から何まで自分でやるような独立時計職人の方が、より複雑な労働を行う。

※これは熟練労働とは別。

歯車磨きだけの熟練について言うと、通常は、独立時計職人よりも、歯車磨き専門の職人の方が、より容易に熟練する。

2. シャツ製造工場の中では、通常は、ミシン工よりも、工場長の方が、より複雑な労働を行う。

例

複雑労働の例 (2) 異部門の例

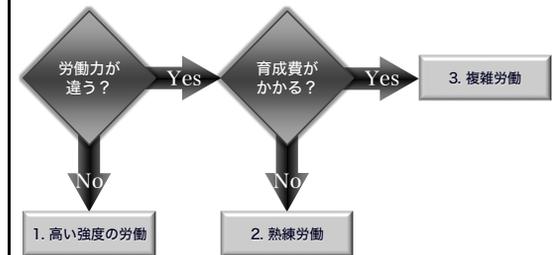
- 修行も資格も不要な新人引越しバイトよりも、大学での修行と国家資格が必要な医者の方が、より複雑な労働を行う。

※資格が必要だから複雑なのではなく、複雑だからこそ資格が必要になるということ、資格の必要性は複雑さの証拠だということに注意。

労働力とインセンティブ

- ▶ 複雑労働力の発揮
- 通常は労働力の変化のために当該労働過程とは別の特別な育成過程が必要になる。
- 労働力の価値が高くなる。
 - ∵ 労働力の育成に追加的な外部コストがかかっているから。
 - 高い基本給に反映

まとめ



今回の結論

- ❖ 資本主義社会のメインプレイヤーは企業と従業員である。
- ❖ 市場は企業が活動するための前提である。
- ❖ それにもかかわらず、市場の原理と企業の原理とは異なる。
- ❖ 熟練労働・複雑労働は高い価値を生む。